

宿縁

三月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL 〇四七—三七二—〇二九一
FAX 〇四七—三七二—〇二六一

如来の眞実心は 偽りを見抜く



宗教または信仰について悪いイメージが
伝えられていて困ったものです。
安倍元首相銃撃事件に端を発した世界平
和統一家庭連合「旧統一教会」の政界との癒
着並びに多額献金問題、そしてここに来てキ
リスト教系宗教団体「エホバの証人」の信仰
上の理由から子供への輸血拒否や虐待の問
題など、また世情をにぎわしています。
こういう事件が出るたびに思うのは、私た
ちの日頃から宗教や信仰への取り組みのお
粗末さを感じずにいられません。

そもそも今の時代、宗教とは何を教える
のか、信心とはどういうものであるのか、
日頃からおろそかになっている証拠です。
そこで親鸞聖人はどうおっしゃってやら
れるのかをしっかりと頂戴いたしましよ
う。

親鸞聖人ほどそのご一生を通して眞実と
は何か、偽りとは何かを、あらゆる観点か
ら調べ根拠を見出し追及された方はいま
せん。そして

九十五種世をけがす
唯仏一道きよくます

菩提に出道してのみぞ

火宅の利益は自然なる (正像末和讃)

(末法の濁りの世になると、九十五種のよこ
しまな邪説がはびこって世人を惑わしけが
している。しかし阿彌陀仏の本願だけは清
浄にしてけがされることがない。ゆえに私
たちは、迷いの世界を離れて念仏道に入る
と、ふたたびこの世に帰ってきて、衆生を
教化することが自在である。)

念仏成仏これ眞宗

萬行諸善これ仮門

権実眞仮をわかずして

自然の浄土をえぞしらぬ (浄土和讃)

(阿彌陀仏のすべての人をそのまま救うとい
う誓願を信じ、つまり素直に受け取って念
仏を申す者は必ず仏となる。これが念仏成
仏の眞宗の教えです。それに反して、さま

ざまな善根功德を積んで、それを振り向けて
救われたいと願うのは聖道の教え。けれども
仏さまの大慈悲心から、そういう人でも浄土
に往生させようと設けてくださったのが仮
の手だて(方便教)である。しかし本物と仮の
ものとの区別をわきまえないのは、まことに
悲しいことである。自然の浄土とは、私たち
のはからいを超えた境地です。私たちはもの
ごとを見るのに必ず自分なりの主観の色眼
鏡をもって見ているので、現実が見えませ
ん。私たちのほからいを取り去った境地、現
実、それが自然の浄土なのです。「えぞしら
ぬ」とは、全く知ることがないのは嘆かわし
いことだという気持ちがこの強い表現にこ
められています。)

そこで、どんな宗教でも目的とするところ
は、安心立命(あんじんりゅうめい)、つまり
心を安らかに、どんな場合にも動じない境地
を得ることです。その道が信心で、これまた
どの宗教も申すことです。

浄土眞実の教えは他力の信心で、自力の信
心とのけじめを明確にすることで、「信心正
因・称名報恩(しんじんしょういん・しょう
みょうほうおん)」が骨格です。すなわち浄
土眞宗において、浄土に生れて仏となる(さ
とりを得る)の正しき因(たね)は信心一つで
あるから、私が南無阿彌陀仏と口に称える念
仏の心持から言えば、阿彌陀仏にそのまま救
うと撰め取られた感謝の思いの中で出てく
る報恩であると教えます。

自力信心とは一般の常識です。それは私の
目に見えない対象に向かつて今ここに無い
ことを信じることです。つまりそれを信じた
ら助かる。こちらがお願いしたら、こちらか

ら動いたら助かるというものです。これは私
たち世間の常識です。

本願力回向の信心は、自ら安心立命の境
地、迷いから脱することのできない哀れな私
の存在を見抜いて、仏の側から先に安心の法
が決定して、今私の上に届けられていること
をいただくのを他力信心といえます。

そこを蓮如上人の「御文章五帖十二通」に、
「これしかしながら弥陀如来の御かたよ
りさづけましましたる信心とはやがて(た
だちに)あらわに知られたり。かるがゆへ
に行者のおおすところの信心にあらず、弥
陀如来他力の大信心ということ、今こそ
あきらかに知られたり。」

とわかりやすく説いてくださいます。
だからこちらからはからいが少しもま
じわらないのが他力の信心というものです。
これから助かる法を聞くのではなく、今助か
っている法を聞くのです。それを平生業成
(へいせいごうじょう)といいます。今すでに
助かることが決定していることです。から、ど
うぞ助けてください、どうぞ救ってください
とこちらから頼む心配はいりません。こちら
から要求することは一切ありません。

生きるすべも知らない乳児には、すでに生
きるすべてのものが母乳に整っているの
です。だから授乳ですね。そのことを通して「仏
のかたより往生は治定せしめたもう。この上
の称名念仏は、如来わが往生を定めたまいし
ご恩報尽の念仏とこのころうべきなり。」です。

拘束があり、恐怖があり、搾取があるもの
は偽りの宗教であることをわきまえてくだ
さい。眞実の信心は柔軟心と金剛心の恵みを
いただきます。

【寺灯雑記】

○二月の常例法座

2/19

一気に春が来たかと思うほど、暖かい陽気のなか、常例法座が勤まり、船橋市浄興寺の渡邊恒行師にお話しいただきました。

渡邊先生の出身地である広島の言葉を交えて、お釈迦さまの最晩年のお言葉である「自灯明、法灯明」のお心について教えていただきました。

○門信徒会役員会を開く

2/19

今年度、一回目となる門信徒会役員会が開かれ、各理事出席のもと諸議題についてご検討いただきました。

昨年度予算決算についてご承認いただいたほか、今後、築地本願寺にて行われる親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃行事についての対応などについて話し合われました。

尚、会員には「門信徒会令和4年度の決算書」を三月号宿縁と一緒に送付致しました。

また、今年の文化講演会の講師に若松英輔さん（批評家、随筆家）が決まったことも報告されました。著書に「生きていくうえで、かけがえのないこと」、「言葉の贈り物」、「見えない涙」、「弱さのちから」など多数。

○親鸞セミナー（教行信証を学ぶ）が終了

2/23

2019年4月から毎月第4土曜日の二時から四時（原則）まで学習してきました「教行信証を学ぶ」は先月二月をもって終了しま

した。

親鸞セミナーでの教行信証講座は三回目でしたが、浄土真宗の根本聖典であり、とにかく難解といわれる文章に挑戦しながらも受講者は親鸞聖人の深い信心の味わいを知ることができたのではないのでしょうか。

尚、来月からの親鸞セミナーは「浄土文類聚鈔（じょうどもんるいじゅしょう）」をおよそ一年間をめどに学習することになりました。

この聖典は、「教行信証」の構成や内容の重点を知り、その理解を助けるものとして極めて大きな意義を持つ著作です。

引き続き前任職の解説ですが是非関心をお持ちいただき気軽に受講されるようお待ちしております。また使用するテキストはお寺で用意をしています。

○当寺門徒総代福島佳行さんがご往生

ご父君（正次氏）のあとを継がれて門徒総代を務めていただいた福島佳行さんが病氣療養中のところ二月二十三日に浄土往生なされました。生前のお力添えに心から感謝申し上げます。

○ウクライナとトルコ・シリアに募金

ロシアによるウクライナ侵攻が始まって一年が経ちましたが、未だ終戦の兆しが見えず、今なお戦火のもとで多くの人が命の危険にさらされ、不安のなかで困難な生活を強いられています。

また、二月六日にトルコ南東部のシリアとの国境付近を震源とする大規模な地震が発生し、厳しい寒さの中、避難生活をおく

るなど甚大な被害が報道され、東日本大震災をはるかに超える五万人以上の尊いのが失われたとも伝えられています。

ウクライナへの人道支援とトルコ・シリア地震で被災された方へ、中原寺ふれあい募金より本願寺たすけあい募金宛てに、左記のとおりに送金させていただきましたのでご報告申し上げます。

- ・ウクライナ緊急支援募金（三回目） 六六、六二四円
- ・トルコ・シリア地震緊急支援募金 十万円

玄関にて募金箱を設置しています。今後とも、ふれあい募金へのご協力をお願いいたします。

【三月の法要・法座・行事】

◎婦人会法座（御文章二帖第十一通）

※三月四日（土） 一時

◎子育てサロン（パンダっ子）

※三月十三日（月） 十一時～二時

地域の子育て中の親子交流の場です。昼食が用意されています。

◎親鸞セミナー（浄土文類聚鈔）

※三月二十五日（土） 二時

今回から親鸞聖人が著された「浄土文類聚鈔」を学びます。根本聖典の「教行信証」の要点を著し、わかりやすくまとめられた内容です。テキストはお寺で用意しています。

★宿縁廟法要並びに彼岸会法要

○宿縁廟法要（廟前）

*三月二十一日（祝日） 一時

分骨並びに総骨を収められた方々の廟前での法要です。新たに分骨をされる方は十二時半までに受付をさせていただきます。

「讃仏偈」の読経と住職法話

○春季彼岸会法要

*三月二十一日（祝日） 一時半

- ・仏説阿弥陀経
- ・讃仏歌（衆念）
- ・法話 「私と念仏」

講師は明治学院大学名誉教授 阿満利磨先生

『四月の行事予定』

◎子ども花まつり

*四月二日（日） 十時三十分～

子どもたちと一緒に、お釈迦さまのお誕生をお祝いします。是非ご家族でご参加ください。おみやげもご用意しています。入場無料



【今月の掲示板のことば】

生死の一大事は 人にまかせてはならない